

山田 広宣 議員 (公明党)

○学校教育のICT(情報通信技術)化について

問本市はICT教育をどう評価するか。また、タブレット端末の活用により、児童生徒の積極的・意欲的な授業参加が可能になったと評価された佐賀県武雄市の例があるが、学力向上のひとつの手段として導入を検討してはどうか。

答総務省が行った実証校アンケートにおける教員及び児童生徒からの肯定的な回答結果から、ICT教育の学習効果については高く評価しているが、授業記録の残し方の難しさや、アプリケーションによつてはゲーム的要素が強すぎるなどの問題点も指摘されているため、今までもおりの教科書やノートを使う授業に、ICTをどう組み合わせることがより効果的であるかなどについて検討していきたい。

また、タブレットの導入については、端末自体が安価であり、様々な使用法が期待されるが、稼働させるためのア

クセスポイントの整備や、複数端末を一齐に充電するための充電装置の整備が必要なほか、耐久性についても問題が指摘されているため、費用対効果についても考慮し、今後検討していきたい。

○地域防災力強化・消防団について

問消防団と市、自治会、自主防災組織との連携強化をどう考えるか。また、昨年末成立の「消防団支援法」が求めるタブレット端末、AEDなどの配備状況・今後の予定は。更には夏服、雨衣、反射ベストを全員支給すべきだが。

答消防団と市の連携については、災害対策本部設置時に、各支団役員が本部に加わり、団員への現場対応の指示にあたるなど連携を図っている。また、自治会や自主防災組織との連携は、地域における共助の活動において、中心的な役割が消防団に期待されることから、重要であると認識している。

また、消防団支援法に基づく新たな配備基準によるタブレット端末やAEDなどの装備品については、優先順位を

決めて段階的な配備を検討するとのことである。

また、夏用の活動服は、今年度、全団員に支給することとされており、反射ベストについても各団に対し段階的に配備する計画で、雨衣については、配備を検討中とのことである。



- その他の質問事項
- ・中小企業・小規模事業者の支援について
 - ・中小企業の近代化促進について
 - ・夏休み子ども教室について

平 ゆきこ 議員 (日本共産党茂原市議団)

○子育て支援について

問子育てに不安を持つ保護者の相談の場として、子育て支援課に「子育て家庭相談室」がある。多様な相談に適切に対応するには保健師、保育士、臨床心理士等、専門性が求められるが、十分な体制と言えない。

今後の体制づくりを伺いたい。

答子育て支援に係る相談ニーズは、年々増加傾向にあり、複雑多岐にわたる困難事例などが増加し、内容もDV・児童虐待・言語発達に関する相談等、幅広く専門的な知識と経験が求められている。現在の相談体制は、室長1名、保健師1名、非常勤児童相談員2名の4人体制で対応しているが、よりきめ細やかな相談体制にするためには、社会福祉士等の専門職の配置について整備する必要があると認識している。

現在、必要に応じて福祉部内の社会福祉士や健康管理課の保健師と連携するとともに、長生健康福祉センターDV相談員と連携を図り対応しているが、今後も関係部署との連携を密にし、子育て支援の充実を図りたい。



○教職員の配置について

問教育現場では、発達障害のある児童生徒への教育的支援のために「特別支援教育支援員」の配置がなされている。しかし、学校現場では支援員は依然、不足の状況であり、増員を求める声が強い。この現状の認識と今後の取組みを伺いたい。

答特別支援教育支援員については、支援の必要な園児・児童・生徒が増加傾向にあることから、昨年度より2名増員し、19名を配置している。現在、特別な支援を必要とする園児・児童・生徒は、ほとんどの学校や幼稚園に在籍し、個人の状況も異なることから、各学校の状況に応じた支援員の配置が必要であると認識している。

また、園児・児童・生徒や学校のためにも経験者や優秀な人材の確保と継続的な配置が不可欠であるため、支援員の処遇改善についても検討していきたい。

- その他の質問事項
- ・子どもの医療費拡充について
 - ・高齢者福祉について
 - ・学校施設整備について